

平成30年度事業報告書

社会福祉法人

大山町社会福祉協議会

平成30年度社会福祉法人大山町社会福祉協議会事業報告

昨年、北海道地震や大阪北部地震など全国各地で大規模な自然災害が発生し、特に7月の西日本豪雨災害においては広島、岡山の被災地のボランティアセンターへの職員派遣を行いました。また、7月から9月にかけて大山町にも幾度となく台風接近の予報が出され、予定していた研修会の中止を余儀なくされるなど事業運営にも影響が出ました。この台風接近等により福祉センターなかやまと保健福祉センターだいせんを一時避難所として開設するなど職員もその対応に追われました。

このような中、平成30年度は災害ボランティアセンター運営マニュアルを策定しました。このマニュアルは、発災後、速やかに被災者等への復興支援を目的とするボランティア活動を多面的にサポートしていくための運営指針等を盛り込んだ内容となっています。今後は、このマニュアルに基づき関係機関と連携した模擬訓練の実施など、災害支援のための具体的な取り組みを進めていくこととします。

また、平成30年度は、本会の健全経営と効率的な事業運営に向け、町補助事業、受託事業について町との協議や理事協議会の中で検討を重ね、福祉バス運営事業の整理等を進めました。しかし、本会の主な収入財源となる町からの補助金について予算措置が行われなかったことと、あわせて介護保険事業収益の激減により経営状況の悪化が著しく、本会の事業運営・財政基盤を揺るがす深刻な状況が続いています。ひきつづき本会への町行政の理解に向けた取り組みを進めるとともに、介護保険事業等については事業転換を含め、あらたな経営方針を打ち出していく必要があります。

具体的な事業の取り組みについて以下のとおり報告します。

地域福祉活動の推進

地域福祉座談会や研修会等の開催をとおして支え愛マップの作成や要支援者の見守り活動など地域福祉ネットワークの推進に向け取り組みを進めるとともに、ふれあい・いきいきサロン活動などを推進し、住民が主体となって取り組む地域福祉活動の推進を図りました。

あわせて、一人暮らし高齢者等への個別訪問調査等を実施し、福祉ニーズの把握に努めるとともに関係機関と連携した支援体制の構築に努めました。

ボランティア活動の充実強化

ボランティアセンター事業として各種の講座、研修会等を開催しボランティアの育成と活動の実践に繋げていくための取り組みを進めました。

ボランティア登録者数はここ数年、減少傾向にありましたが、平成30年度は微増となっています。美化活動、イベント補助、託児ボランティアなど定着した活動が展開されていますが、給食サービスボランティアについては配食数の減少やボラン

ティアの高齢化などによりボランティア活動者が減少傾向にあります。一方で、平成30年度から傾聴ボランティアの自主的なグループ活動が始まり、定期的な福祉施設における傾聴活動が利用者のみならず施設側にも歓迎されています。このことがボランティア活動者数の底上げにもなっています。今後も、住民のニーズキャッチに努め、ボランティア活動したい人にマッチングできるようボランティアセンター機能の充実強化を図っていくことが必要です。

生活困窮者自立支援事業の推進

自立相談支援事業では、行政や民生委員等の福祉関係者からの相談依頼が増加しており、若年層を含む稼働年齢層の相談者が増えてきています。相談者のほとんどが失業による経済的な問題とあわせて障がい等の複合的な課題を抱えた困難ケースとなっています。

就労準備支援事業では、ひきこもり、病気等により就労が困難な方へ農業体験などをおして就労に対する意欲や自信がつくことで一般就労へつながったケースもみられました。

学習支援事業では、あらたに島根大学の学生の協力により夏休み期間を利用した教室型学習支援を展開しました。ふだんの大人の支援員による学習支援に加え、このような機会を増やしていくことで子どもたちの学習への意欲の助長につながっています。

その他、広報活動や関係機関への周知・連携を図ることでフードパートナーの登録者拡大などに繋がり、「食べるものがない」などの緊急性の高い生活課題について速やかに対応することが可能となっています。

介護保険事業・障がい福祉サービス事業の推進

介護保険事業では、居宅介護支援事業、訪問介護事業、通所介護事業を実施し、利用者の生活の質の向上と自立支援を基本に、効率的かつ質の高いサービスの提供に努めました。介護保険事業は、ここ数年の傾向として居宅介護支援事業、訪問介護事業、通所介護事業ともに全体的に利用者数が減少傾向にあります。利用者の内訳としては、重度の要介護状態の利用者が減少傾向にある反面、総合事業の利用者が増加傾向にあり、介護報酬の増収に結びついていない現状がつづいています。

障がい福祉サービス事業においては、居宅介護事業・地域生活支援事業（移動支援）、基準該当生活介護、特定相談支援事業を実施し、利用者が自立した生活を営むことができるようサービスの向上に努めました。障がい福祉サービス事業の利用者数は支援訪問介護、支援通所介護ともに微増となっています。

第5号議案 平成31年度社会福祉法人大山町社会福祉協議会
事業計画（案）について

第6号議案 平成31年度社会福祉法人大山町社会福祉協議会
予算（案）について

③監査会の開催

(第1回)

[期日・会場] 平成30年5月10日・福祉センターなかやま

[出席の状況] 監事2名

[監査事項] 平成29年度大山町社会福祉協議会事業報告及び会計報告
(資金収支計算書、事業活動計算書、貸借対照表並び財産目録)
について

(第2回)

[期日・会場] 平成30年11月9日 福祉センターなかやま

[出席の状況] 監事2名

[監査事項] 平成30年度中間（上半期）事業報告及び中間（上半期）会計
報告について

④理事協議会の開催

(第1回)

[期日・会場] 平成30年4月19日・保健福祉センターなわ

[出席の状況] 理事7名出席

[協議事項] ・社協が実施する事業（町補助事業、受託事業）について
・福祉バス運行事業（町補助事業）の今後の方針について

(第2回)

[期日・会場] 平成30年9月11日・保健福祉センターなわ

[出席の状況] 理事7名出席

[協議事項] 福祉バス運行事業について
(協議の結果、マイクロバス1台を売却処分（一般入札）とする
ことに決定。)

(2) 委員会の開催

①大山町地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会の開催

[期日・会場] 平成31年2月27日 保健福祉センターなわ

[出席の状況] 委員7名

[内 容] 大山町地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗状況について

②大山町災害ボランティアセンター運営マニュアル策定委員会の開催

(第1回)

[期日・会場] 平成31年1月30日 保健福祉センターなわ

[出席の状況] 委員7名・県社協1名

[内 容] 大山町災害ボランティアセンター運営マニュアル策定について

(第2回)

[期日・会場] 平成31年3月27日 保健福祉センターなわ

[出席の状況] 委員4名出席

[内 容] 大山町災害ボランティアセンター運営マニュアル策定について

(3) 法人の運営管理

- ①法人会計例月検査 12回(毎月1回)
- ②管理職・各事業所主任ミーティング
30回(4月～6月毎週火曜日に開催、7月～3月隔週火曜日に開催)
- ③管理職会 随時
- ④衛生委員会 5回(4月27日・6月22日・8月24日・10月26日・12月7日)
(内容: ストレスチェック、インフルエンザ対策、職員健康診断について等)

(4) 社協会費納入状況

種別	件数		金額	
	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度
普通会費	4,531	4,519	4,444,000	4,375,200
賛助会費	7	6	14,000	12,000
特別会費	17	14	105,000	90,000
合計	4,555	4,539	4,563,000	4,477,200

※普通会費が減少傾向にある。

(5) 香典返し等寄付金状況

種別	件数		金額	
	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度
香典返し	165	152	4,238,000	3,167,000
見舞い返し	2	2	20,000	15,000
一般寄附	11	12	150,285	467,276
その他(物品)	2	2	4,900	4,900
合計	180	168	4,413,185	3,654,176

※昨年度と比較し香典返しが大きく減少。

(6) 大山町福祉大会・ボランティアフェスティバル

「子どもと地域のつながり～子どもたちが輝けるまちづくり～」をテーマに、大山町・大山町教育委員会と共催で、地域福祉推進と地域ぐるみの子育て支援に向けた講演会や活動実践発表、社会福祉の推進に貢献された方々の表彰、その他映画上映、展示、各種バザー等の内容で開催した。

[期日・会場] 平成30年6月18日(日)・保健福祉センターなわ

[内容]・大山町社会福祉協議会長表彰

(表彰) 社会福祉事業関係団体5名、職員永年勤続2名

(感謝状) ボランティア1名、企業4団体

・講演会「ヒトの育児の進化の道すじ

～なぜ地域ぐるみの子育て支援がもとめられるか～

講師 京都大学大学院教授 明和 政子氏

・映画上映「ペコロスの母に会いに行く」

・町内施設展示、ものづくり・体験コーナー・バザー等

[参加者] 約270名

[考察]

大山町・大山町教育委員会が実施する生涯学習大会との共催により、社協、行政職員、約30名のボランティアスタッフの協力のもと開催。ホームページやチラシ、ポスターにQRコードを活用するなど広報の工夫に努めた。表彰式の来場者が少ないことや若年層、中間層の来場者が少ないことなどが課題。

近年、来場者は減少傾向にあり、運営の方法・内容等を再検討する時期にきている。

(7) 広報・啓発活動の充実

① 広報誌「ほほえみ」の発行

号数	発行	主な内容
66号	平成30年 4月	平成30年度事業計画・予算、第14回福祉大会ボランティアフェスティバルのお知らせ、平成30年度共同募金配分金活用助成事業のお知らせ、会費納入のお願い 他
67号	平成30年 6月	平成29年度社協事業報告・決算報告、大山町福祉大会・ボランティアフェスティバル開催報告、ボランティアセンターコーナー、共同募金配分金活用助成事業配分決定 他
68号	平成30年 9月	西日本豪雨災害ボランティア報告、地域福祉推進研修会報告、生活困窮者等地域支援ネットワーク推進会議報告、赤い羽根共同募金運動・歳末たすけあい募金協力のお知らせ 他
69号	平成30年 11月	共同募金配分金を利用しての地域の福祉活動紹介、赤い羽根共同募金・義援金実績報告、福祉教育の取り組み、サロン世話人研修会報告、防災グッズ紹介 他
70号	平成31年 2月	保健推進員・福祉推進員合同研修会報告、支えあいマップ作成啓発、共同募金配分金活動助成事業募集、傾聴ボランティア研修・春休みチャレンジスクールのお知らせ 他

② ホームページの運営（随時更新）

大山町社会福祉協議会ホームページを開設し、町内の福祉活動の様子やボランティアに関する研修会のお知らせ等、情報発信、広報活動に努めた。

③ 会費のパンフレットの発行（6月）

(8) えんくるり事業（生活困難者に対する相談支援事業）

深刻な生活課題の解決に向け、既存の制度の対象とならない事案へ対応するため、鳥取県社会福祉協議会を基幹とし県内の社会福祉法人の連携のもと総合相談・支援体制の構築と自立支援のための協働事業を実施した。

相談件数：6件

延べ利用者数：14件（実利用者数：6件）

支援内容：生活上緊急的措置が必要な案件

（食料、ガソリン代、電気代等の現物支給）

(9) 生活支援体制整備事業の推進

一人暮らし高齢者等の生活上の困りごとを支援する仕組みづくりの一環として、有償ボランティア「ささえあいたい」を推進し、困りごとがある人と援助できる人をつないでいく地域の支え合い・助けあい活動の推進を図った。

延べ利用者数：20件（実利用者数：2件）

活動内容：家庭用のゴミ出し

(10) 災害時における支え愛地域づくり活動推進事業の推進

自治会が主体となって、支え愛マップの作成を通じ、要援護者に対する災害時の避難支援等の仕組みづくりや平常時の見守り体制を整備し、身近な地域で安心安全に暮らすための取組みの推進。

- ・災害時要支援者対策促進事業・・・富長西集落
- ・災害時要支援者対策ステップ事業・・・御来屋東区・飯戸自治会

(11) 災害ボランティアセンター職員派遣

- ① 平成30年7月19日～22日 派遣先 岡山県総社市 1名
- ② 平成30年9月10日～13日 派遣先 岡山県倉敷市 1名

2. さわやか福祉基金事業の推進

(1) 調査活動の推進

一人暮らし高齢者世帯等（給食サービス利用者・防災グッズ配布世帯）を定期的に訪問し、ニーズの聞き取りを行い生活実態の把握に努めた。必要に応じて関係機関と連携しサービス等に繋げた。訪問回数・・・69回

(2) 地域福祉推進研修会等の開催

「地域の支え合い」をテーマに民生児童委員・福祉推進員を対象にした地域の気運を高めるための研修会を実施した。

① 地域福祉推進研修会

〔期日・会場〕平成30年8月25日（土）保健福祉センターなわ

〔内 容〕事務局説明

講演「住民主体の支え愛マップづくりから地域づくりへ
～安心と笑顔と達成感のレシピ～」

講師 鳥取県自主防災活動アドバイザー

日野ボランティアネットワーク 森本 智喜 氏

〔参加者〕75名

〔考察〕参加者は前年とほぼ同数。内容は支え愛マップの必要性と作成のワークショップ。近年災害が頻発する中、住み慣れた地域で暮らすための支えあいの仕組み作りの推進、啓発を行った。アンケート結果によると、支え愛マップを集落で活用したいとの回答が多く、必要性を感じていただけた研修会となった。

② 保健推進員・福祉推進員合同研修会

〔期日・会場〕平成31年2月3日（日）保健福祉センターなわ

- [内 容] 事務局説明「保健推進員と福祉推進員のそれぞれの役割と協働した地域づくりについて」
 事例発表「小地域保健福祉活動支援事業の取り組みについて」
 発表 御来屋11区保健推進員 阪本京子 氏
 講演「災害に備えた支え合いの地域づくり」
 講師 mottoひょうご 事務局長 栗木剛 氏
- [参 加 者] 合計209名
 (保健推進員82名 福祉推進員96名 民生委員31名)
- [考 察] 2年任期の初年で、新しく選出された福祉推進員の参加もあり、昨年より20名多い参加者。町内で積極的に福祉活動をされている集落の活動発表や講演では災害に備えた地域づくりに向けた取り組みについてのお話をいただいた。防災・減災も含め、身近な地域福祉活動の重要性について理解を深めてもらう機会となった。

③ 地域福祉座談会の開催

- [内 容] ・社会福祉協議会の事業紹介 (地域福祉活動の説明)
 ・地域の支え合い活動の紹介 (DVD視聴)
 ・福祉 (防災) マップの説明・作成等
- 束積座談会
 [期日・会場] 平成30年8月20日 (月) 19:30～ 束積集会所
 [参加者] 6名
 - 富長西座談会
 [期日・会場] 平成30年8月20日 (月) 19:00～ 富長西公民館
 [参加者] 12名
 - 茶畑座談会
 [期日・会場] 平成30年8月22日 (水) 19:30～ 茶畑公民館
 [参加者] 7名
 - 福尾座談会
 [期日・会場] 平成30年8月24日 (金) 19:30～ 福尾公民館
 [参加者] 4名
 - 稲光座談会
 [期日・会場] 平成30年8月27日 (月) 19:30～ 稲光公民館
 [参加者] 5名
 - 住吉座談会
 [期日・会場] 平成30年8月29日 (水) 19:30～ 住吉公民館
 [参加者] 13名
 - 赤松座談会
 [期日・会場] 平成30年8月29日 (水) 19:30～ 赤松集会所
 [参加者] 13名
 - 新坪田座談会
 [期日・会場] 平成30年8月31日 (金) 19:30～ ふれあい会館
 [参加者] 8名

○長田座談会

[期日・会場] 平成30年9月25日(火) 19:30～ 長田公民館

[参加者] 9名

○下木料座談会

[期日・会場] 平成30年9月27日(木) 19:30～ 下木料公民館

[参加者] 4名

○坊領座談会

[期日・会場] 平成30年9月28日(金) 19:30～ 坊領公民館

[参加者] 15名

参加者: 11集落(96名)

(3) 給食サービス事業

① 配食型給食サービス(毎週水曜日・昼食時)

中山支所: ボランティア 延290名(調理177名・配食113名)

配食数 253食

大山支所: ボランティア 延449名(調理208名・配食241名)

配食数 547食

計: ボランティア 延739名(調理385名・配食354名)

配食数 800食

② 会食型給食サービス

実施回数: 延べ7回 実施集落: 2集落(八重、畑) 延べ参加者数79名

3. ボランティアセンター事業の推進

(1) ボランティア登録者数: 145名(平成31年3月31日現在)

[依頼件数] 43件

[斡旋件数(延日数)] 43件(延311日)

[派遣人数] 延1,197名

[考察]

ボランティア登録者数は微増となっている。依頼件数は年々減少傾向であるが、託児や傾聴ボランティア等の派遣依頼は増加傾向にある。ボランティア派遣を行ったが当日台風の接近等により急遽中止となるケースもあった

(2) ボランティア派遣状況

期日	事業名	依頼者	活動場所	活動内容	活動人数
4月3日～ 4月9日	外出レクリエーション	通所介護ほほえみ	琴浦町鳥取牧場、ポート赤崎	話し相手、見守り等	10
4月19日	ママのためのヨガ教室	名和ふれあいサークル	ふれあい会館	託児	2
5月21日～ 5月28日	外出レクリエーション	通所介護だいせん	とっとり花回廊	見守り等	15
5月24日	ママのためのヨガ教室	名和ふれあいサークル	ふれあい会館	託児	2

6月17日	第14回大山町福祉大会・ボランティアフェスティバル	社協	保健福祉センター なわ	調理、販売等	11
6月21日	ママのためのヨガ教室	名和ふれあいサークル	ふれあい会館	託児	2
6月23日	映画上映「夜間もやってる保育園」	ええがな大山	中山温泉館	託児	3
7月9日～ 7月13日	外出レクリエーション	通所介護ほほえみ	トライアル琴浦店	見守り等	15
7月12日	ママのためのヨガ教室	名和ふれあいサークル	ふれあい会館	託児	2
7月15日	全日本トライアスロン皆生大会	大山町役場観光商工課	大山町内競技コース、中山トレーニングセンター	交通誘導等	7
7月28日	夏祭り	ル・ソラリオン名和	ル・ソラリオン名和	販売等	5
7月28日～ 7月29日	甲川溪流まつり	中山まちづくり実行委員会	中山公民館、うぐいす橋下手	調理、片付け等	6 ※台風接近のため中止
8月3日	サマースクール	社協	大山隠岐国立公園 他	見守り、声かけ	3
8月25日～ 8月26日	大山の大献灯	大山夏祭り実行委員会	大山寺参道	道案内等	5
8月30日	ママのためのヨガ教室	名和ふれあいサークル	ふれあい会館	託児	3
9月14日、 9月18日	すもう大会	名和小学校	名和小学校	行司	14
9月19日～ 9月28日	ミシンボランティア（6年生対象）	名和小学校	名和小学校	見守り等	6
9月20日	ママのためのヨガ教室	名和ふれあいサークル	ふれあい会館	託児	3
9月20日、 9月27日	ミシンボランティア（5年生対象）	名和小学校	名和小学校	見守り等	3
9月22日	映画上映「湯を沸かすほどの熱い愛」	ええがな大山	中山温泉館	託児	2
9月23日～ 9月24日	大山の大献灯	大山夏祭り実行委員会	大山寺参道	道案内等	2
10月7日	大山はまなすサイクリング	中山まちづくり実行委員会	中山公民館、フォーラムなかやま	調理等	4
10月21日	第14回ストーク収穫祭	ストーク作業所	ストーク作業所	各コーナーの手伝い	1
10月24日	校内マラソン大会	名和小学校	名和小学校	声かけ、見守り	4
10月25日	ママのためのヨガ教室	名和ふれあいサークル	ふれあい会館	託児	2

11月23日	「大山町大人のみなさん」託児	大山町役場企画課	名和中学校	託児	3
12月18日	かけ算九九ボランティア	名和小学校	名和小学校	声かけ等	7
12月22日	「大山町の大人のみなさん小中高生の声を聞いてくれin 中山地区」託児	やらいや逢坂	旧逢坂保育所	託児	1
1月12日	漢字検定ボランティア	名和小学校	名和小学校	見守り	7
1月27日	「こどもたちのやりたい×叶えたい自由会議」託児	大山町役場企画課	保健福祉センター だいせん	託児	1
2月23日	第2回「こどもたちのやりたい×叶えたい自由会議」託児	大山町役場企画課	保健福祉センター だいせん	託児	2
2月26日	かけ算九九ボランティア	名和小学校	名和小学校	声かけ等	7
3月2日	赤ちゃんとマタニティータイム	大山町役場こども課	保健福祉センター なわ	託児	4
通年	傾聴ボランティア	通所介護ほほえみ	通所介護ほほえみ	話し相手	25
通年	傾聴ボランティア	通所介護だいせん	通所介護だいせん	話し相手	5
通年	傾聴ボランティア	大山やすらぎの里	大山やすらぎの里	話し相手	31
通年	喫茶ボランティア	ル・ソラリオン名和	ル・ソラリオン名和	喫茶補助等	63
通年	離乳食講習会	健康対策課	保健福祉センター なわ	託児	38
通年	精神デイケア	健康対策課	保健福祉センター なわ	送迎	14
通年	精神デイケア	健康対策課	保健福祉センター なわ	見守り、調理	22
通年	乗馬セラピーボランティア	大山乗馬センター	大山乗馬センター	乗馬体験支援、見守り	102
通年 (毎週水曜日) 年間44回	給食サービス(中山地区)	社協	中山公民館	給食(弁当)の調理・配達、見守り	調理 177 配食 113
通年 (毎週水曜日) 年間44回	給食サービス(大山地区)	社協	保健福祉センター だいせん	給食(弁当)の調理・配達、見守り	調理 208 配食 241

(3) ボランティアフェスティバルの開催(大山町福祉大会と同時開催)

(4) ボランティア育成事業

ボランティア育成や意識の向上を図るための啓発や技術習得のための各種研修会、交流会を開催した。

① 手話教室の開催・基礎編（2回）

[期日・会場] 1回目：平成30年6月30日（土）・保健福祉センターなわ
2回目：平成30年7月7日（土） ※台風接近により中止

[参加者] 3名

[考察] 聴覚障がいについて理解を深め、ボランティアの啓発や育成に繋げることができた。第2回目は台風の接近により中止となった。参加者数は減少傾向であり、開催時期・内容について検討が必要である。

② 男の料理塾

(第1回)

[期日・会場] 平成30年5月18日（金）・保健福祉センターなわ

[内容] 地元の魚を使った料理（中級）

講師 御来屋漁協 お魚センターみくりや
店長 角 尚論 氏

[参加者] 15名

(第2回)

[期日・会場] 平成30年12月10日（月）・保健福祉センターなわ

[内容] 乾物や缶詰などの保存食を使用したおせち料理

講師 大山町健康対策課 栄養士

[参加者] 15名

(第3回)

[期日・会場] 平成31年1月28日（月）・保健福祉センターなわ

[内容] 災害時の料理（カセットコンロを使用した料理（初級））

講師 大山町健康対策課 栄養士

[参加者] 9名

[考察] 主に、団塊の世代を中心にボランティアの育成や啓発とともに災害発生時に活用できる調理方法等を学んだ。

参加者の内6名は新規で昨年度より微増となったが、研修内容の検討、新たなボランティア分野への方向付けの提案が必要である。

③ 乗馬セラピーボランティア研修会（乗馬セラピーボランティアーズと共催事業）

[期日・会場] 平成30年6月27日（水）・大山乗馬センター

[内容] 講義 障がい者への理解、
実技 乗馬体験、デモンストレーション

[参加者] 12名（大山町1名）

[考察] 心身に障がいのある方等が乗馬や馬とのふれあい体験をする際の補助ボランティアで、障がいの理解や対応の方法等、実践活動を推進し、ボランティアの啓発、育成に努めた。乗馬セラピーを利用される方は増えており、ボランティアの人材確保が課題である。

④ 障がい(児)者交流会

[期日] 平成30年11月17日（土）

[会場] 保健福祉センターなわ及び梶村りんご園
[内容] りんご狩り、レクリエーション
[参加者] 20名
[考察] 保護者の参加も多く、ボランティアとの交流場にはなっていない。
自主的事業にボランティアを派遣する等の事業に変えていくことも視野に入れ検討が必要である。

⑤ 傾聴ボランティア研修会

[期日・会場] 平成31年3月13日(水)・保健福祉センターなわ

[内容] 講義 傾聴の基本について～役割・活動紹介～

演習 簡単なロールプレイ、ふりかえり

講師 島根県松江市 傾聴の会「まつえ一期」

代表者 藤田 智子 氏

[参加者] 19名

[考察] 傾聴の大切さや効果、傾聴を身につけるために「聞く」と「聴く」の違いについて話をされ、新たなボランティアの育成や既にボランティアとして活動されている方のふり返り研修となった。

⑥ 託児ボランティア研修会

[期日・会場] 平成31年1月30日(水)・保健福祉センターなわ

[内容] 子どもとの関わり、発達障がいについて

講師 鳥取県自閉症協会 ペアレントメンター

[参加者] 17名

[考察] 託児ボランティアで活動している方のスキルアップや新たにボランティア活動をされる方に対して、活動の促進や啓発を行った。

⑦ クリーン作戦(町内清掃ボランティア活動)

[期日・会場] 平成30年4月21日(土)・名和公園及び名和駅舎周辺

[内容] 除草作業

[参加者] 51名

[考察] 年々参加者数は微増となっている。実践を通じて、ボランティア活動の啓発と促進を図った。

(5) 福祉教育の推進

学校関係者と連携を図り、児童・生徒に学習の機会の提供や体験学習をとおして福祉教育の促進を図った。

① 福祉教育推進校への助成・支援

○福祉教育推進事業補助金の助成(町内の小学校4校、中学校3校)

○高齢者疑似体験サポーター派遣及びグッズ貸出し等。

② 福祉教育推進校連絡会の開催

[期日・会場] 平成30年5月15日(火)・保健福祉センターなわ

[内容] 平成30年度の福祉教育推進の方針について等

[参加者] 町内小・中学校の福祉教育担当教職員 7名

③ サマースクール（夏休み福祉体験学習）

〔期日・会場〕平成30年8月3日（金）・大山隠岐国立公園

〔内 容〕大山観光局主催ツアー「大山ブナの森ウォーク」に参加

〔参加者〕26名

〔考 察〕大山開山1300年祭に因み、身近にある大山の歴史と自然環境の大切さについて学習の機会となった。

④ 春休みチャレンジスクール

〔期日・会場〕平成31年3月25日（月）・保健福祉センターなわ

〔内 容〕起震車体験・非常食調理

〔参加者〕22名（保護者4名含む）

〔考 察〕ポリ袋での調理や起震車体験に真剣に取り組む姿が見られた。災害が頻発する中、子供たちや保護者にも自分たちに出来ることを考える機会となった。

4. ふれあいのまちづくり事業の推進

(1) 心配ごと相談

開設日：毎月第2水曜日 午前9時30分～12時

相談員：民生児童委員

会 場：保健福祉センターなわ

相談件数：4件

(2) 法律相談

開設日：毎月第4水曜日 午前9時30分～11時30分

相談員：弁護士

会 場：各福祉センター（1ヶ月毎輪番）

相談件数：30件

(3) 心の健康相談

開設日：平成30年5月23日（水）、7月30日（月）、9月20日（木）

相談員：医師、心理士

会 場：保健福祉センターなわ

相談件数：8件

〔考 察〕心配ごと相談については、30年度より会場が保健福祉センターなわ1か所での開催となった。各相談件数ともに横ばい。

5. 福祉サービス利用援助事業利用状況（日常生活自立支援事業）

認知症や知的障がい、精神障がい等、判断能力が十分でない方を対象に、日常生活を営むのに必要なサービスの利用援助や日常的金銭管理などを行い、住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう支援を行った。

地区名	中山	名和	大山	計
利用件数	0	3	1	4
相談件数	1	0	2	3
終了件数	0	1	0	1
支援員(人)	0	4	1	5
利用延べ回数	0	27	3	30

※利用者の内訳：高齢者2件、精神障がい者1件、知的障がい者1件

※相談件数の内訳：高齢者1件、知的障がい者2件

※終了件数の内訳：精神障がい者1件

[考察] 知的障がい者の方の相談は、昨年度より微増。

終了件数の内、本人が自己管理を希望され、今後も自立した生活が見込めるとして契約終了となった。

6. 生活福祉資金貸付事業利用状況

低所得者世帯、高齢者世帯等を対象に資金の貸付と必要な支援を行い、世帯の経済的自立や生活意欲の助長を促進し、安定した生活を送れるようにすることを目的に実施した。

地区名	中山	名和	大山	計
利用件数	6	18	10	34

※平成30年度新規貸付件数 2件

7. 共同募金配分金事業の推進

(1) 赤い羽根共同募金運動と配分金活用事業の推進

(募金期間10月1日～12月31日)

① 共同募金・歳末たすけあい募金活動実績

種別	平成29年度実績	平成30年度実績
赤い羽根共同募金	1,920,040円	1,825,626円
歳末たすけあい募金	1,538,355円	1,517,408円

② 共同募金配分金活用助成事業

集落、グループ等、自らの企画で地域福祉を充実させるための活動等に対し助成事業を展開した。

○世代間相互交流事業(上野自治会)

○施設訪問事業(合唱団まゆ)

○高齢者の閉じこもり防止事業(赤松集落)

○世代間交流集会所整備事業(林之峯自治会)

○サロン・敬老会事業(畑自治会)

○冷蔵庫購入事業(平自治会)

- 世代間料理体験事業（大雀集落）
- 健康教室の開催（住吉自治会）（8団体）

③ 外出支援タクシー券配布事業

赤い羽根共同募金の配分金を活用し、日頃の通院や買い物等の際に交通手段がなく支援が必要である方に対して外出の支援を行うことを目的に実施。

[実施期間] 平成30年6月18日～平成31年3月1日

[対象世帯] 75歳以上の一人暮らし世帯、または支援が必要な高齢者世帯で運転免許を保持していない方。

配布実績：153世帯

④ 歳末たすけあい募金配分事業

○布団クリーニング事業

支援を必要とされる一人暮らし高齢者世帯、住宅で寝たきりの方がおられる世帯等、要介護世帯を対象に布団クリーニング事業を実施。

[実施期間] 平成30年11月23日～平成30年11月30日

[実施世帯] 46件

○防災グッズ配布事業

支援が必要な一人暮らし高齢者世帯へ民生児童委員、福祉推進員、社協職員が訪問立会いのもと、防災グッズの配布を実施。

[実施時期] 平成31年3月5日（火）

[対象世帯] 70歳以上の一人暮らし世帯等 33世帯

8. 生きがい活動支援地域型事業の推進（ふれあいいきいきサロン活動）

高齢者の閉じこもり防止や健康促進。さらにサロン参加者に対してアンケート調査を行い高齢者の実態調査なども行った。また、世話人研修会の開催やレクリエーション用具の貸出などを行いながら、サロンの自主開催などの支援を行った。

① ふれあい・いきいきサロン活動の普及促進

- ・実施回数 98回（中山23、大山34、名和41）
- ・開催地区数 66箇所（中山18、大山25、名和23）
- ・参加者数 延べ877名

② ふれあい・いきいきサロン世話人研修会

（第1回）

[期日・会場] 平成30年10月29日（月）・保健福祉センターなわ

[内 容] サロンで役立つレクリエーション指導（講義・実技）

指導 安来レクリエーション協会 理事長 山根良雄 氏

[参加者] サロン世話人（福祉推進員、他）23名

（第2回）

[期日・会場] 平成31年3月5日（火）・保健福祉センターなわ

[内 容] サロン参加者へ簡単にアドバイスできる健康指導（講義・実技）

指導 健康対策課 進野保健師、立林保健師

[参加者] サロン世話人 22名

9. 家族介護者交流事業

要介護3以上の家族を在宅で介護されている方を対象としたリフレッシュ事業。

(第1回)

[期日・会場] 平成30年11月13日(火)
とっとり花回廊・大山ロイヤルホテル
[内 容] 寄せ植え体験・観光・昼食
[参加者数] 6名

(第2回)

[期日・会場] 平成30年11月19日(月)
松江市・足立美術館(安来市)
[内 容] 堀川遊覧・昼食・鑑賞(庭園・美術)
[参加者数] 9名
[考 察] 内容や時期、利用される方の要望を取りいれながら開催したが利用者数は横ばい。今後、委託事業であることから行政と協議していく必要がある。

10. 家族介護教室の開催

(第1回)

[期日・会場] 平成31年3月9日(土) 保健福祉センターだいせん
[内 容] 講義、実技「誰でも出来る、らくらく介護術～福祉用具を知ろう使ってみよう」
[参加者数] 12名

(第2回)

[期日・会場] 平成31年3月16日(土) 保健福祉センターだいせん
[内 容] 「知って得するお尻まわり～漏れないおむつの当て方、選び方、豆知識～」
[参加者数] 14名
[考 察] 講師に西部地区で活動している理学療法士等を迎え、実際の介護に役立つ内容であることから参加者から好評を得ている。
参加者数は横ばい傾向にあることから、早めの広報や町内の福祉施設等に働きかけるなど工夫が必要である。

11. 外出支援サービス事業

要介護状態の高齢者等で一般公共交通機関を利用することが困難な方を対象に通院のための外出支援サービスを実施した。

○延べ利用者数 1,347人 ○実利用数 49人

1 2. 葬儀用祭壇の貸出実績

種別	中山支所		名和支所		大山支所		合 計	
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
仏式祭壇	23	18	28	20	1	0	52	38
神式祭壇	4	0	1	2	0	0	5	2
合 計	27	18	29	22	1	0	57	40

1 3. 福祉バスの運行実績

利用団体	中山支所		大山支所		合 計	
	利用回数	延人数	利用回数	延人数	利用回数	延人数
町関係	10	169	20	347	30	516
社協関係	3	56	0	0	3	56
老人クラブ関係	20	369	4	94	24	463
身障協会関係	1	21	0	0	1	21
その他の団体	9	171	1	21	10	192
合 計	43	786	25	462	68	1248

1 4. 福祉センター利用実績

(1) 福祉センターなかやま利用

	利用回数	利用者数 (人)
大会議室	14	563
中会議室	1	33
軽作業室	66	317
介護者教育室	18	53
カウンセリング室	4	10
合 計	103	976

(2) 保健福祉センターだいせん

	利用回数	利用者数 (人)
大集会室	59	1,833
大会議室	0	0
相談室	6	18
中会議室	1	8
小会議室	6	36
2階研修室	44	886
調理実習室	76	486
1階研修室	31	278
機能訓練室	69	1,493
工 房	35	167
きゃらぼく室	95	600
合 計	422	5,805

生活困窮者自立相談支援事業

1. 自立相談支援事業

ア 相談の受理及び支援状況

平成 30 年度相談受理件数は、43 件で当事者からの相談が 18 件（41.9%）、関係機関等からの相談が 25 件（58.1%）であった。

相談者 43 人に対する相談・支援は延べ 356 回実施している。このうちフードパートナーによる食糧支援（7 人 10 回）を除き、3 月末現在で各種制度等へのつなぎ等により支援を終了した者は 9 人であった。

なお、今後も継続的に関わりが必要な対象者 5 人については、平成 31 年度以降も引き続き支援を行う。

【相談者】

相談者	人数
本人	15 人
行政等	25 人
家族等	3 人
その他	0 人
計	43 人

【相談・支援の実施状況】

内 容	回数	内 容	回数
来所相談・支援	56 回	ケース検討	37 回
電話相談・支援	102 回	フードパートナー	10 回
出張相談（訪問）	18 回	えんくるり	14 回
同行支援	73 回		
支援機関等調整	46 回	計	356 回

イ 相談者の抱える課題

昨年同様、相談者の多くは就労出来ていないことから経済的に困窮状態に陥っているケースが多く、40~50 歳代男性からの相談が多く見られた。また、若年層の就労や負債の相談も増加している。

ほとんどのケースが就労・負債・障害等複合的な課題を抱えており、いわゆる困難ケースとなっている。また、本人のみならず世帯に対して支援の必要なケースが多数みられた。

【初回相談内容（複数回答あり）】

内容	件数	内容	件数
病気・健康・障がいのこと	6	仕事探し、就職について	3
住まいについて	3	仕事上の不安やトラブル	1
収入・生活費のこと	25	地域との関係について	1
家賃、ローン、税金、公共料金の支払いについて	2	家族との関係について	4
債務について	5	子育てのこと	3
介護のこと	2	DV・虐待のこと	1

引きこもり・不登校	1	その他	10
食べる物が無い	3	計	70

2. 就労準備支援事業

相談者の就労支援にあたり、ひきこもり、疾病、障がい等により早期の就労が困難な場合において、農業体験や選別作業（エコキャップ）を実施した。農業体験では、メンバーで協力して行うことで協調性の向上につながり連帯感も深まった。この体験を通じて農業に対する意欲や自信もつき、農業法人に一般就労したケースもあった。

また、さくらカフェプラスという作業体験に特化したメニューも新たに加え、利用者がステップアップできるよう支援できた。

区 分	登録人数	会 場	延べ人数
居場所（さくらカフェ）	9人	保健福祉センターなわ	215人
作業体験（さくらカフェプラス）	2人	大山恵みの里公社	10人

3. 学習支援事業

家庭環境等さまざまな課題を抱える子どもの学習支援を実施した。

支援内容は事前に相談し、本人や家族の状況に応じて週1～2回、1～2時間の支援を個別に実施した。また、夏休み期間を利用して教室型学習支援（ひみつ基地）を実施した。大学生（島大）にも支援員として活動してもらい、家庭でできない体験や夏休みの宿題に取り組んだ。

会場：保健福祉センターなわ・大山公民館 学習支援員登録数：8名（教員OB等） 登録児童数：小学生4名・中学生2名 支援延べ人数：253人

4. 家計相談支援事業

家計状況の「見える化」と根本的な課題を把握し、相談者が管理できるよう支援計画を作成し早期の生活再生の支援を実施した。個別指導回数は相談者の状況に応じ週1回から2週に1回の頻度で行った。

利用者数	利用延回数	支援内容
3名	64回	収支の把握・返済計画等

5. フードパートナー事業

広報紙等に「フードパートナー」の登録の協力を掲載したことにより、登録者が大幅に増員した。その結果、一部の登録者に偏ることなく食糧支援を実施する事ができた。

フードパートナー登録者数	25名
支援回数	10回

6. 関係機関等との連携

①大山町生活困窮者等地域支援ネットワーク推進会議の開催

期日 平成30年9月10日

会場 保健福祉センターなわ

参加人数 42名

内容 ・平成29年度事業実施報告及び平成30年度中間報告
・子どもの学習支援新規事業報告
・就労準備支援事業新規事業報告

②支援調整会議の開催

支援プラン作成の会議として、関係機関職員、自治体担当職員等に参加いただき随時開催した。

- ・支援調整会議 6回
- ・支援対象者（プラン作成） 13件（新規 9件 再プラン4件）

③生活困窮者自立相談事業従事者研修への参加 1名参加

・家計相談支援事業従事者養成研修

期日 平成30年9月26日～27日

④関連会議・研修会への参加

ア 社協担当者会議 2回

イ その他関係会議・研修会等 5回

7. 広報・啓発活動

①広報誌掲載・・・年1回 全戸配布

②各種研修会での事業説明（各地区民生児童委員協議会 他） 2回

③ホームページへ掲載

④パンフレット作成・・・関係機関へ配布

8. 受託事業の実施成果

○就労準備支援事業、子どもの学習支援事業ともに、利用者がステップアップするための新規事業に取り組むことができた。

中でも、子どもの学習支援では大学生を支援者として配置した事や体験を多く取り入れたことで、子供たちが自然に学習に向き合える時間が持てたと思う。

又、複数の児童での「教室型支援」を行ったことにより、良い意味での競争心も養えたと感じる。

就労準備支援事業では、社協のイベントに参加し自分たちが収穫した農作物の販売を行うなど、引きこもりがちな利用者が社会参加できる場を持つことができた。

○今年度の相談の中にはネットワーク推進会議のメンバーから繋がったケースもあり、関係機関との連携の強化や本事業の理解が深まったと感じる。

平成30年度 居宅介護支援事業実績

(単位:件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付	137	131	141	140	128	128	126	120	121	111	116	114	1,513
予防	28	30	31	30	31	31	32	32	34	34	31	31	375
ケアマネジメントA	31	31	30	29	28	29	27	27	26	27	28	27	340
ケアマネジメントB	7	8	7	6	6	6	5	5	5	5	5	4	69
合計	203	200	209	205	193	194	190	184	186	177	180	176	2,297

予防(リハビリ、訪問看護等)は、冬季減少する事無く年間66件の増加。ケアマネジメントA(デイサービス、ヘルパー)は年間22件の減。ケアマネジメントA・B(元気アップ教室)共に死亡や介護へ移行等で減少。また、季節的に夏と冬はリハビリ入所される方が多い。近年、総合事業対象者で入浴目的にデイサービスを希望される割合が増え、受け入れ可能なデイサービスが社協と他2事業所しかない為、社協のケアマネ依頼が増えている。全体では、独居・老夫婦世帯の増加や認知症等支援内容も複雑化している。

平成30年度 訪問介護事業実績

○介護保険サービス

訪問件数=延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体介護	273	262	218	211	221	208	240	234	216	239	216	222	2,760 回
生活援助	218	238	221	265	204	211	178	145	127	99	92	100	2,098 回
身体生活	17	17	23	22	56	56	48	45	58	60	61	41	504 回
総合事業	125	137	125	134	144	120	121	124	108	111	124	131	1,504 回
合計	633	654	587	632	625	595	587	548	509	509	493	494	6,866 回
訪問件数(介護)	32	33	33	32	30	31	30	32	30	29	27	27	366件 (△85件)
訪問件数(総合事業)	20	19	21	23	21	21	20	19	19	19	21	21	244件 (△1件)

独居や介護者が高齢である利用者も多く、認知機能や身体機能の低下が見られると在宅よりも入所やロングショートを選択される方が増えている。最後まで在宅を希望される利用者は、複数のサービス機関を利用され訪問回数も多くなるが、死亡等により一気に訪問が無くなるケースがあり収入に影響している。総合事業(利益率が低い)の訪問件数は前年度より1件減に留まり、介護の訪問件数は前年度より85件減となっている。

○障がい福祉サービス【支援訪問だいせん】

訪問件数=延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体	148	155	154	158	154	149	153	148	149	144	117	124	1,753 回
生活	122	134	126	124	118	120	125	119	123	73	83	88	1,355 回
移動支援	1	1	0	2	1	1	1	2	1	1	0	1	12 回
合計	271	290	280	284	273	270	279	269	273	218	200	213	3,120 回
訪問件数	20	20	19	21	20	19	19	20	20	20	17	19	234件 (5件増)

対象年齢が若い為、入所や死亡される方が殆どなく安定した利用状況にある。10月から特別事業所加算が認可され、年間を通して増収となる見込みであったが、1月より、朝(身体)・夕(家事)毎日の利用者が、体調不良により長期入院されており、1月～3月にかけて減収となった。身体・知的・精神障がいの方のうち精神障がいの利用者の割合が多い。

平成30年度通所介護事業実績

(1) 通所介護ほほえみ(中山支所)

○介護保険事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護 給付	営業日数	21	23	21	22	23	20	23	22	21	23	20	21	260 (日)
	延べ 利用者数	401	400	390	409	385	339	364	328	259	255	228	260	4,018 (人)
予防 給付	営業日数	21	23	21	22	23	20	23	22	21	23	20	21	260 (日)
	延べ 利用者数	70	96	74	85	95	86	100	87	80	81	81	90	1,025 (人)
合計		471	496	464	494	480	425	464	415	339	336	309	350	5,043 (人)

※1日あたり平均利用者数 19.4 人

利用者の身体機能の変化に伴い、死亡や施設への入所が多くあり大幅な減収となった。特に介護度が高く、毎日利用の方々が減少している。居宅事業所からの介護の利用者依頼は少ないが、他事業所にはあまりない「支援でも入浴ができる」という特色が総合事業の利用が増加傾向となっている。総合事業から介護への移行のケースも増えつつある。

○障がい福祉サービス・生活介護(基準該当)事業【支援事業所ほほえみ】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
障害 給付	営業日数	21	23	21	22	23	20	23	22	21	23	20	21	260 (日)
	延べ 利用者数	42	40	45	40	41	36	40	40	33	31	35	38	461 (人)

※1日あたり平均利用者数 1.8 人

個々の病状により多少の利用増減は見られたが、全体的には増収となった。
1件長期入院のため、今後の利用再開は難しい現状がみられる。

○通所型サービスA: サービス【元気アップ教室ほほえみ】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業日数		4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6 (日)
延べ 利用者数		4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6 (人)

1名元気アップの利用者があったが入院され、その後施設入所とされた。6月以降新規利用者はない。

(2)通所介護だいせん(大山支所)

○介護保険事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護 給付	営業日数	21	23	21	22	23	20	23	22	20	20	20	21	256 (日)
	延べ 利用者数	422	457	442	412	383	381	435	386	299	325	334	379	4,655 (人)
予防 給付	営業日数	21	23	21	22	23	20	23	22	20	20	20	22	257 (日)
	延べ 利用者数	91	99	95	112	108	108	115	118	112	114	122	108	1,302 (人)
合計		513	556	463	537	514	529	550	504	411	439	456	487	5,959 (人)

*一日あたり平均利用者数 23.2 人

介護は8月、9月、1月、2月は独居等で在宅での生活が困難な利用者が施設入所となり減収となった。3月にかけて、入所中の利用者が在宅復帰となり徐々に増収となってきている。総合事業については入浴希望の利用者が多く、増加傾向にある。職員体制により、2月から機能訓練を中止した。

○障がい福祉サービス・生活介護(基準該当)事業【支援事業所だいせん】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
障害 給付	営業日数	21	23	21	22	23	20	23	22	20	20	20	21	256 (日)
	延べ 利用者数	12	11	12	12	12	12	16	17	12	11	23	18	168 (人)

*一日あたり平均利用者数 0.7 人

利用休止中だった利用者が再開、新規利用者が2月から1件増え、30年度後半は増収となった。

○通所型サービスA:サービス【元気アップ教室だいせん】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業日数		4	5	4	5	4	4	5	4	4	4	4	4	51 (日)
延べ 利用者数		8	10	4	5	3	4	5	4	3	0	0	0	46 (人)

*一日あたり平均利用者数 0.9 人

状態の変化に伴い介護認定を受け、総合事業や他事業所に移られ、1月以降元気アップの利用者はなし。

平成30年度 相談支援事業所サポートセンターだいせん事業実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画相談支援		20	20	20	20	11	18	16	16	21	17	16	22	217
障害児相談支援		0	1	3	1	2	1	0	0	2	1	2	1	14
請求件数		20	21	23	21	13	19	16	16	23	18	18	23	231

平成29年度101件あった件数が、平成30年度は93件と減った事で大幅な減収となった。